東洋証券ハンドボール　ジャパンカップ'87速報

世界の強豪が華麗なプレーを披露

世界の強豪を招いての「東洋証券ハンドボール・ジャパンカップ'87」は、5月30日から6月6日まで、東京、横浜、大阪、名古屋の4会場で、非常に多くのハンドボール・ファンを集めて盛大に開催された。

男子は、ロサンゼルス・オリンピックの金メダルのユーゴスラビア、そして銀メダルの西ドイツと両雄を招いて地元日本が迎え撃つ。また、女子は、世界チャンピオンのソ連、ロサンゼルス・オリンピックで銀メダルを獲得した韓国、そしてロス五輪以来進境著しいアメリカの三ヵ国を招き、ソウル・オリンピック出場をめざす日本を混えて四ヵ国のリーグ戦で戦われた。

日本ハンドボール協会の50周年事業の一環として総力をあげて取り組まれたこのイベントは、日本ハンドボール界初の〝冠大会〟として多くの関心を集めたが、世界のトップクラスのチームのエキサイティングなプレー、そしてソウルをめざす全日本男女の必死なプレーが、多くの観衆の共感を得た。

成績の方は、男子は1位ユーゴスラビア、2位西ドイツ、3位日本。女子は1位ソ連、2位韓国、3位日本、4位アメリカという結果となり、まだ世界のトップチームを倒すには至らなかったが、全日本男女のがんばりは8月のアジア選手権で、来年のソウル・オリンピックへの男女アベック出場に向けて大きな期待を抱かせた。

なお、この大会の詳報については、次号、次々号で全国のみなさんにお伝えする予定でいる。

◆5月30日（土）
代々木第1体育館

〈男子〉
西ドイツ 22（11−8, 11−12）20 ユーゴスラビア

〈女子〉
ソ連 35（17−5, 18−7）12 日本
韓国 31（15−8, 16−14）22 アメリカ

◆5月31日（日）
代々木第1体育館

〈男子〉
ユーゴスラビア 31（14−8, 17−7）15 日本

〈女子〉
日本 19（7−11, 12−5）16 アメリカ
ソ連 31（17−14, 14−15）29 韓国

▽世界女子ジュニア選手権
アジア地区予選
日本 29（11−13, 18−10）23 中国台北

◆6月2日（火）
代々木第1体育館

〈男子〉
西ドイツ 24（13−7, 11−10）17 日本

〈女子〉
韓国 32（17−12, 15−15）27 日本
ソ連 30（14−7, 16−11）18 アメリカ

▽世界女子ジュニア選手権
アジア地区予選
日本 26（15−12, 11−12）24 中国台北

※この結果、日本が今年10月にデンマークで開催される第6回世界女子ジュニア選手権への出場権を獲得した。

◆6月3日（木）
横浜文化体育館

〈男子〉
ユーゴスラビア 25（12−13, 13−7）20 日本

◆6月5日（金）
大阪市中央体育館

〈男子〉
ユーゴスラビア 26（17−8, 9−5）13 西ドイツ

◆6月6日（土）
名古屋体育館

〈男子〉
西ドイツ 22（10−7, 12−9）16 日本

第28回全日本実業団選手権（男子の部）

大崎電気が 16年ぶり12回目の優勝

第28回全日本実業団選手権大会男子の部は、4月24日から26日までの3日間、愛知県立体育館で12チームが参加して開催された。

四強は順当に勝ち上がったが、決勝戦は湧永製薬対大崎電気という昨年と同じ顔合わせとなった。2年連続優勝を目ざす湧永だったが、前半から終始大崎にリードを許し、リードを奪うことができなかった。

大崎電気は宮下らの活躍により昨年の雪辱を遂げて16年ぶり12回目の優勝を飾った。

◆1回戦

トヨタ車体 20〔8－5 12－12〕17 本田技研熊本

〔戦評〕お互い固さが見られ、シュートミスを重ねる立ち上がり。前半、ポスト、サイドを生かした車体が3点差でリードする。

後半立ち上がり、10―5と車体がリードするが、本田熊本・長野のステップシュートなどで連続5得点、10―10の同点となる。その後1点差を争うシーソーゲームが残り1分まで続くが、トヨタ車体・松井の速攻、長野のミドルシュートで試合を決めた。

得	〔車体〕		〔熊本〕	得
0	宮田	GK	中尾	0
0	村林	GK	坂本	0
8	長野	FP	斉所	0
1	藤長	FP	長野	7
0	萩原	FP	佐伯	2
0	君島	FP	長野	3
6	河村	FP	荒田	0
3	松井	FP	三代	1
0	平野	FP	松村	0
0	吉続	FP	田中	0
2	中島	FP	山口	0
0	井上	FP	川崎	4
20	(2)	PT	(1)	17

〔審・小山 飼沼〕

トヨタ自動車 22〔9－8 13－12〕20 三陽商会

〔戦評〕前半、トヨタのペースで進む。15分過ぎ、三陽・実方の負傷退場にもめげず追い上げ、1点差で前半を終わる。

後半10分同点となるが、直ちにトヨタ自動車・川田がペナルティーを決めリードを保つ。残り4分まで点は取り合うが、1点差のまま進行する。その間、トヨタは順次3名の退場者が出るが、GK中西の好守でしのぐ。その後トヨタはポスト、速攻で3点差まで広げゲームを決める。

トヨタGK中西の好守が光ったゲームであった。

得	〔自動車〕		〔三陽〕	得
0	中西	GK	宇田川	0
0	西井	GK	吉田	0
3	香井	FP	関	1
7	川田	FP	清家	3
3	相本	FP	田口	1
1	堀江	FP	砂川	2
5	中西	FP	山口	3
0	乙子	FP	浜田	6
3	坂口	FP	実方	1
0	平野	FP	安藤	0
0	白坂	FP	河村	0
0	松尾	FP	大塚	3
22	(2)	PT	(1)	20

〔審・　〕

日新製鋼 27〔12－15 15－8〕23 三景

〔戦評〕前半、三景は郡司のポスト、ロングシュートで確実に得点に結びつけていた。日新は、サイド、カットインと反撃を見せるが速攻ミスが再三あり、前半は3点差で終了した。

後半は、日新が堀田の速攻でじりじり追い上げ、同点に追いついてからは日新が常にリードする形で三景の追い上げをくいとめた。

得	〔日新〕		〔三景〕	得
0	西川	GK	中村	0
0	森田	GK	北川	0
2	森	FP	田畑	6
2	武田	FP	峰尾	0
7	西山	FP	近藤	0
1	藤井	FP	高橋	0
0	日野	FP	福永	4
4	堀田	FP	郡司	10
0	一瀬	FP	田村	0
3	高木	FP	鈴木	3
6	野中	FP	山田	0
2	池田	FP	大谷	0
27	(1)	PT	(0)	23

〔審・小山 飼沼〕

中村荷役運輸 29〔14－7 15－11〕18 セントラル自動車

〔戦評〕前半、中村荷役は福士のステップシュートとセントラルのパスミスによる速攻にて確実に得点を重ねる。セントラルは、速攻でのシュートミス、パスミスが多

得	〔中村〕		〔セント〕	得
0	石井	GK	佐藤	0
0	末次	GK		
2	三尾	FP	谷中	6
0	塚田	FP	尾形	1
2	北	FP	海老原	2
8	福士	FP	守谷	3
9	大木	FP	筌場	3
0	吉田	FP	寿田	0
2	酒井	FP	千葉	3
1	堀戸	FP	藤野	0
3	長原	FP	瀬戸	0
2	池田	FP	中村	0
29	(1)	PT	(1)	18

〔審・板倉 岩本〕

く、リズムに乗りきれないまま終了した。

後半は、セントラルがサイド攻撃にて得点を追加するが、中村荷役はセットプレーにて大木のジャンプシュートがよく入り、セントラルの攻撃をかわし順当に勝った。

◆2回戦

湧永製薬34〔23－6／11－3〕9トヨタ車体

〔戦評〕前半から湧永のペースで速攻、ロング、ポストと多彩な攻撃を見せ、車体に攻め入るチャンスを与えないまま前半を23―6で終了。

後半、湧永はメンバーを変え攻撃するものの、シュートミスなどで雑になり、前半程のプレーは見られず、車体も攻撃に工夫なく、唯一GK宮田の好守が目を引いた試合であった。

得	〔湧永〕		〔車体〕	得
0	大城	GK	宮田	0
0	井藤	GK	村林	0
0	生駒	FP	長野	3
9	玉村	FP	藤長	0
2	堀田	FP	萩原	0
4	志賀	FP	君島	2
2	中川	FP	河村	2
1	内田	FP	松井	2
3	荷川取	FP	平野	0
2	檜原	FP	吉続	0
8	酒巻	FP	蓑田	0
3	河原	FP	井上	0
34	(1)	PT	(0)	9

（審・中山 田嶋）

大崎電気36〔16－7／20－9〕16中村荷役運輸

〔戦評〕両チームとも好守が目立つ試合であったが、守りから速攻への切り替えの早い大崎電気が得点を重ね、またセットプレーでは首藤、宮下の打点の高い豪快なロングシュートなどで大差の試合となった。

得	〔大崎〕		〔中村〕	得
0	渡辺	GK	石井	0
0	矢内	GK	高橋	0
4	松岡	FP	三尾	4
7	大和田	FP	塚田	1
5	武田	FP	北	0
11	首藤	FP	福士	4
3	中田	FP	大木	2
3	山本	FP	吉田	0
0	越迫	FP	酒井	0
0	菅田	FP	堀戸	0
0	相馬	FP	長原	5
3	宮下	FP	池田	0
36	(4)	PT	(2)	16

（審・岩本 坂倉）

大同特殊鋼45〔24－5／21－9〕14トヨタ自動車

〔戦評〕今大会で優勝を狙う大同は、日本リーグ1部に昇格したトヨタ自動車との戦いになったが、前半立ち上がりから大同は確実なプレーで、速攻、ポスト、ロングなど次々と点数を重ね順当勝ちした。

一方トヨタは、前半で大同に圧倒された感じで、攻めても単調なシュートが多く、1部との差をまざまざと見せつけられた試合となった。

得	〔大同〕		〔自動車〕	得
0	上村	GK	中西	0
0	秋吉	GK	西井	0
10	田中	FP	香井	1
3	内藤	FP	川田	5
5	高村	FP	相本	3
5	朝生	FP	堀江	1
4	中本	FP	中西	0
7	蒲生	FP	乙子	1
2	横浜	FP	坂口	0
3	佐藤	FP	平野	0
1	林	FP	白坂	0
5	名取	FP	松尾	3
45	(1)	PT	(2)	14

（審・中山 田嶋）

本田技研鈴鹿23〔8－10／15－8〕18日新製鋼

〔戦評〕立ち上がりから攻守ともにスピーディな展開の日新は、10分で5―1とリード。対する本田も内藤のカットインプレーなどで徐々に追い上げるが、前半を日新2点のリードで折り返す。

後半に入っても一進一退のゲーム展開となったが、地力に勝る本田が落ち着いたプレーで勝利を握った。本田GK橋本の好守が光った一戦であった。

得	〔鈴鹿〕		〔日新〕	得
0	大畑	GK	西川	0
0	橋本	GK	森田	0
1	三本松	FP	森	1
0	藤井	FP	武田	1
2	立木	FP	西山	1
2	尾上	FP	藤井	2
7	内藤	FP	日野	1
5	栗屋	FP	堀田	3
0	吉山	FP	藤本	0
0	田口	FP	高木	7
5	山本	FP	野中	2
1	山村	FP	池田	0
23	(0)	PT	(2)	18

（審・川島 森）

◆9〜12位決定戦

三景25〔12－6／13－8〕14本田技研熊本

〔戦評〕前半10分を過ぎても本田技研熊本の得点は1点。三景はディフェンスの詰めが速く、楽にシュートを打たせない。13分には本田技研熊本は斉所のロングシュートで波に乗るかに見えたが、すかさず三景は田村が決め、徐々に引き離していった。

着実にシュートを決めた三景が前半を大きくリードして余裕を見せた試合であった。後半途中から戦列に入った本田熊本・長野の頑張りが印象に残った。

得	〔三景〕		〔熊本〕	得
0	中村	GK	中尾	0
0	北川	GK	坂本	0
5	田畑	FP	長野	5
0	峰尾	FP	佐伯	1
4	近藤	FP	長野	4
0	高橋	FP	鯖江	1
1	福永	FP	荒田	1
9	郡司	FP	三代	0
2	田村	FP	松村	1
3	鈴木	FP	田中	0
0	山田	FP	山口	1
1	大谷	FP	川崎	0
25	(2)	PT	(4)	14

（審・田嶋 中山）

三陽商会20〔8－7／12－7〕14セントラル自動車

〔戦評〕前半は互いにがっぷり四つの展開であったが、三陽商会の方のシュートミスが目立つ。後半は三陽商会のディフェンスがよく、セントラル自動車に得点を許さな

得	〔三陽〕		〔セント〕	得
0	宇田川	GK	佐藤	0
0	吉田	GK		
2	関	FP	谷中	5
1	清家	FP	尾形	1
1	田口	FP	海老原	2
6	砂川	FP	守谷	1
3	山口	FP	筌場	0
4	浜田	FP	寿田	0
0	安藤	FP	千葉	4
3	河村	FP	田中	0
0	吉原	FP	藤野	0
0	大塚	FP	瀬戸	1
20	(0)	PT	(0)	14

（審・森 楓）

い。三陽商会は、ノーマークシュートやPTを確実に決めていればもう少し楽な試合展開になっただろう。

セントラル自動車のGK佐藤のキープ力が光った試合であった。

◆11位決定戦

本田技研熊本 22 (9—8, 13—5) 13 セントラル自動車

〔戦評〕両チームともシュートミスが多い展開であったが、前半中ばに本田技研熊本が山口、田中の速攻。ポストプレーでリズムをつかみ、得点するものの、セントラル自動車も必死のディフェンスで食い下がり、前半終了まで1点差の好ゲームとなった。

後半、本田技研熊本の勢いが勝り、15分過ぎには17—11とリードを奪い、ゲームの主導権を握った。

	〔セント〕	得	〔熊本〕	得
GK	佐藤	0	中尾	0
GK			坂本	0
FP	谷中	1	長野	1
FP	尾形	2	佐伯	0
FP	海老原	3	長野	4
FP	守谷	2	鯖江	2
FP	釜場	1	荒田	0
FP	寿田	0	三代	3
FP	千葉	3	松村	3
FP	田中	0	田中	1
FP	藤野	0	山口	6
FP	瀬戸	1	川崎	2
PT	(1)	13	(1)	22

〔審・岩本・板倉〕

◆9位決定戦

三景 21 (8—8, 9—9, 1—0, 3—0) 17 三陽商会

〔戦評〕試合開始の滑り出しでは三陽商会が堅実なディフェンスから速攻へつないで順調に得点していったのに対し、三景は10過ぎ頃までチームの固さがとれず、苦しい展開であった。その後、PT、速攻で徐々に追い上げ、残り5分で同点とした。

後半に入ってからは、両チームともディフェンスが良く、前へつめて速攻へつなぐ好ゲームとなったが、三景が相手チームのミスにつけ込み、一歩リードした形になった。しかし、残り10秒三陽商会・清家のPTで追いつき延長戦となった。

延長に入り、三陽商会の速攻シュートを三景GK中村の好守に阻まれ、着実にシュートを決めた三景が勝利を得た。

	〔三陽〕	得	〔三景〕	得
GK	宇田川	0	中村	0
GK	吉田	0	北川	0
FP	関	3	田畑	3
FP	清家	1	峰尾	0
FP	田口	0	近藤	1
FP	砂川	5	福永	3
FP	山口	3	郡司	3
FP	浜田	3	田村	1
FP	安藤	0	鈴木	10
FP	河村	2	山田	0
FP	吉原	0	日越	0
FP	大塚	0	滝沢	0
PT	(1)	17	(7)	21

〔審・小山・飼沼〕

◆5～8位決定1回戦

日新製鋼 21 (13—4, 8—10) 14 トヨタ車体

〔戦評〕前半の出だしは五分五分だったが、日新の堅い守りにトヨタ車体はシュートまで持って行くことができず、徐々の日新ペースとなり、前半は日新の楽勝ペースで終わった。

後半は、逆にトヨタ車体が頑張り、大味な試合とならず伯仲した展開となった。

	〔車体〕	得	〔日新〕	得
GK	宮田	0	谷	0
GK	村林	0	森田	0
FP	長野	4	森	1
FP	藤長	2	武田	3
FP	萩原	0	西山	1
FP	君島	1	日野	2
FP	河村	4	堀田	3
FP	松井	2	藤本	4
FP	平野	0	一瀬	1
FP	吉続	0	高木	2
FP	蓑田	1	野中	2
FP	井上	0	池田	2
PT	(0)	14	(2)	21

〔審・小山・飼沼〕

トヨタ自動車 26 (13—6, 13—10) 16 中村荷役運輸

〔戦評〕前半14分まで両チームの好守が光り、5—5の好ゲームだったが、トヨタ自動車が相手ミスを確実に得点に結びつけ、13—6と大きくリードして前半を終了した。

後半も、波に乗るトヨタ自動車が着実に得点を重ね、懸命に粘る中村荷役を突き放して勝利を収めた。

	〔中村〕	得	〔自動車〕	得
GK	石井	0	中西	0
GK	高橋	0	西井	0
FP	三尾	1	香井	8
FP	塚田	1	川田	7
FP	北	2	相本	3
FP	福士	7	堀江	5
FP	大木	5	中西	2
FP	吉田	0	乙子	0
FP	酒井	0	坂口	1
FP	堀戸	0	平野	0
FP	長原	0	白坂	0
FP	池田	0	松尾	0
PT	(2)	16	(3)	26

〔審・田嶋・中山〕

◆7位決定戦

トヨタ車体 18 (8—7, 10—10) 17 中村荷役運輸

〔戦評〕前半、両チームともパス、シュートのミスが多く、1点を争う接戦となった。ミドルシュートを中心とした攻撃で得点をあげる中村荷役に対し、トヨタ車体もポスト、サイドシュートで応戦し、両チームとも譲らず、終了寸前に速攻で得点をあげたトヨタ車体が8—7と前半1点をリードした。

後半開始早々同点に追いついた中村荷役が5分に逆転したが、ト

	〔中村〕	得	〔車体〕	得
GK	石井	0	宮田	0
GK	末次	0	村林	0
FP	三尾	1	長野	7
FP	塚田	1	藤長	2
FP	北	0	萩原	0
FP	福士	8	君島	2
FP	大木	3	河村	2
FP	吉田	0	松井	3
FP	酒井	0	吉続	1
FP	堀戸	0	中島	1
FP	長原	3	蓑田	0
FP	池田	1	井上	0
PT	(0)	17	(1)	18

〔審・川島・森〕

ヨタ車体もすぐに点を取り返し、前半同様の展開となった。同点で迎えた22分に速攻で得点したトヨタ車体が、あせりの見える中村荷役のミスをつき得点を重ね、粘る中村荷役を1点差でふり切った。

◆5位決定戦

トヨタ自動車 23（11—7、12—8）15 日新製鋼

〔戦評〕前半、ブラインドを利用してミドルシュート、ポストへのパスを行い攻撃するトヨタ自動車に対し、シュート力は若干上ながら単調なミドルシュートによる攻撃を行う日新製鋼がトヨタGKの好守に阻まれ、4点をリードされて前半を終了。後半、日新はパスミス、シュートミスが目立ち、攻撃が単調になった。これに対しトヨタは、スピードにあふれる動きで得点を重ね、特に相手GKの動きを良く見た浮かしたシュートが良く決まり、GKの再三の好守もあって一方的に勝利を収めた。

〔日新〕	得		〔自動車〕	得
西川	0	GK	中西	0
森田	0	GK	西井	0
森	2	FP	香井	4
武田	0	FP	川田	9
西山	3	FP	相本	2
藤井	3	FP	堀江	4
日野	0	FP	中西	2
堀田	2	FP	乙子	0
一瀬	0	FP	坂口	2
高木	5	FP	平野	0
野中	0	FP	白坂	0
池田	0	FP	松尾	0
(2)	15	PT	(3)	23

（審・岩本　板倉）

◆準決勝

湧永薬品 23（14—4、9—9）13 大同特殊鋼

〔戦評〕湧永は、サイド、ポスト、ミドルなど多彩なプレーで得点を重ねた。

一方大同は、前半からロングを中心とした攻撃を見せたが、湧永GKの好守にあい、予想外の点差がついた。

〔大同〕	得		〔湧永〕	得
上村	0	GK	井藤	0
秋吉	0	GK	徐	0
田中	2	FP	生駒	0
内藤	0	FP	玉村	10
高村	3	FP	堀田	0
朝生	3	FP	志賀	1
中本	1	FP	中川	2
蒲生	0	FP	荷川取	1
横浜	0	FP	山本	0
佐藤	2	FP	楢原	0
林	0	FP	酒巻	4
名取	2	FP	河原	5
(2)	13	PT	(5)	23

（審・板倉　岩本）

大崎電気 29（14—12、15—12）24 本田技研鈴鹿

〔戦評〕立ち上がり半速攻で2点を連取、波に乗りかける大崎に対し本田もよく粘り、一進一退の接戦となった。前半14—12と大崎の2点リードで終了。

後半、双方ミスの連続でスタートし、そのミスを速攻に結びつけ差を広げる大崎に対しセットで追いすがる本田だが、あせりからかプレーが小さくなり、逆にミスからの速攻を受けて点差が開いてしまった。

〔鈴鹿〕	得		〔大崎〕	得
大畑	0	GK	岡部	0
橋本	0	GK	矢内	0
三本松	0	FP	松岡	5
藤井	0	FP	大和田	2
立木	7	FP	武田	0
尾上	0	FP	首藤	6
内藤	7	FP	中田	9
粟屋	1	FP	山本	4
吉山	2	FP	越迫	0
田口	0	FP	菅田	1
山本	6	FP	相馬	0
山村	0	FP	宮下	2
(2)	24	PT	(1)	29

（審・川島　森）

◆3位決定戦

本田技研鈴鹿 19（10—12、9—6）18 大同特殊鋼

〔戦評〕前半、両チームともスピードのある攻撃で互角の戦いとなったが、蒲生のフリースローからのシュートがよく決まり、大同の2点リードで前半を終った。

後半に入り、一進一退の攻防が続いたが、18—18の同点から残り30秒で大同に痛いミスがあり、それを速攻につなげた本田が逃げ切った。

〔大同〕	得		〔鈴鹿〕	得
上村	0	GK	大畑	0
秋吉	0	GK	橋本	0
田中	3	FP	三本松	0
内藤	0	FP	藤井	5
高村	3	FP	立木	1
朝生	6	FP	尾上	0
中本	1	FP	内藤	4
蒲生	5	FP	粟屋	2
横浜	0	FP	吉山	1
佐藤	0	FP	田口	2
林	0	FP	山本	2
名取	0	FP	山村	2
(4)	18	PT	(2)	19

（審・小山　飼沼）

◆決勝

大崎電気 28（13—12、15—11）23 湧永製薬

〔戦評〕立ち上がり、湧永は大崎・宮下へのディフェンスが甘く、ロングシュートだけで5点を許す。これに対し、大崎の激しいディフェンスに両フローターが思うように動けない湧永は、酒巻、荷川取のサイド、ポスト攻撃で応戦し、13—12と大崎の1点リードで前半を終了。

後半、スタートは一進一退のゲームとなったが、11分過ぎから17分まで湧永は3人が続いて退場。これで湧永はリズムが狂い、次第に点差が開いた。その後湧永も速攻で追い上げたが、及ばなかった。

大崎のロングシューター・宮下の活躍が目立ったゲームであった。

〔湧永〕	得		〔大崎〕	得
井藤	0	GK	岡部	0
徐	0	GK	矢内	0
生駒	1	FP	松岡	2
玉村	5	FP	大和田	1
堀田	0	FP	武田	0
志賀	3	FP	首藤	4
中川	2	FP	中田	4
内田	0	FP	山本	7
荷川取	4	FP	越迫	0
楢原	0	FP	菅田	0
酒巻	2	FP	大野	0
河原	6	FP	宮下	10
(3)	23	PT	(3)	28

（審・川島　森）

第28回全日本実業団選手権（女子の部）

大崎電気が2年ぶり4回目の優勝

第28回全日本実業団選手権大会女子の部は、5月8日から10日までの3日間、大阪市中央体育館で20チームが参加して開催された。

決勝は、2年ぶりの優勝を狙う大崎電気と最近躍進著しいシャトレーゼが初優勝を賭けて対戦、韓国から尹選手を呼んで戦力アップした大崎電気がシャトレーゼをふり切って、2年ぶり4回目の優勝を飾った。大崎電気は、男子の部でも優勝を飾っており、見事アベック栄冠となった。

◆1回戦

日本ビクター 29（15－6、14－6）12 ムネカタ
ソニー国分 17（11－8、6－8）16 ジャスコ
シャトレーゼ 27（16－7、11－9）16 大和銀行
北国銀行 34（19－13、15－10）23 東京重機

得	〔日ビ〕		〔ムネ〕	得
0	小口	GK	遠藤	0
0	高橋		我妻	0
4	下條	FP	藤谷	1
0	太田		佐藤	4
7	長田		佐々木	0
3	中村		桜井	2
0	山之内		酒井	2
4	枝川		管野	1
6	平松		皆川	1
0	松井		太田	0
3	永岡		上遠野	0
2	工藤		高橋	0
29	(1)	PT	(0)	12

（審・島崎、井上）

得	〔ソニー〕		〔ジャ〕	得
0	阿多石	GK	山口	0
			吉田	0
0	斜木	FP	服部	0
1	宮原		高岡	2
1	久木田		池田美	0
7	崎元		佐々木	0
0	東郷		池田久	4
3	山口		武田	3
5	藤元		渡辺	4
0	楠本		川井	3
0	当房		石田	0
0	永尾			
17	(1)	PT	(4)	16

（審・浅井、山本）

得	〔シャ〕		〔大和〕	得
0	丸山	GK	高浜	0
0	高原		増見	0
0	星野	FP	赤瀬	1
6	嶋崎		上村	4
9	海道		藤本	0
3	松沢		渡辺	0
0	島袋		袰川	7
0	小林		木瀬	3
2	小野寺		平井	0
0	小沼		貞本	1
4	山岸		松田	0
2	李京姫			
27	(1)	PT	(2)	16

（審・北上、大原）

得	〔北国〕		〔重機〕	得
0	辻	GK	大角	0
0	川北			
4	中川	FP	山崎	0
3	林		佐藤	6
1	丹後		嶋田	4
7	松田		内山	0
4	松下		伊原	2
0	川崎		井田	0
0	塙		古谷	5
7	金明恵		大林	2
6	金昌順		熊谷	4
2	上田			
34	(2)	PT	(1)	23

（審・秋永、崎野）

◆2回戦

日立栃木 24（9－11、11－9、3－1、1－1）22 日本ビクター
大崎電気 36（15－10、21－8）18 ソニー国分

得	〔日立〕		〔日ビ〕	得
0	岡本	GK	小口	0
0	梅津		高橋	0
5	井沢	FP	下條	4
0	山口		太田	0
2	菅原		長田	3
10	尾苗		中村	0
1	中村		山之内	1
1	神永		枝川	6
0	石毛		平松	3
2	新井		松井	0
3	岡田		永岡	0
0	吉鶴		工藤	5
24	(2)	PT	(2)	22

（審・浅井、山本）

得	〔大崎〕		〔ソニー〕	得
0	大西	GK	阿多石	0
0	佐々木			
2	松尾	FP	斜木	0
2	須永		宮原	3
5	石井		久木田	4
2	沖山		崎元	4
9	徳渕		東郷	0
5	金玉花		山口	0
1	尹秉順		藤元	7
4	江口		楠本	0
0	前川		当房	0
6	鈴木		永尾	0
36	(1)	PT	(1)	18

（審・島崎、井上）

得	〔シャ〕		〔ブ工〕	得
0	丸山	GK	大薮	0
0	高原		三浦	0
0	星野	FP	荒木	4
4	嶋崎		茂山	0
5	海道		中村	2
4	松沢		道上	1
0	小林		太田	1
1	小野寺		大久保	0
0	小沼		松尾	0
3	山岸		末永	0
2	李京姫		野田	1
1	井出			
20	(2)	PT	(0)	9

（審・北山、大原）

シャトレーゼ 20（8－5、12－4）9 ブラザー工業
立石電機山鹿 23（12－9、8－11、1－1、2－0）21 北国銀行

得	〔立石〕		〔北国〕	得
0	岡本	GK	辻	0
0	竹下		木戸	0
0	江口	FP	中川	3
5	山口		林	0
4	横田		丹後	0
0	田中		松田	7
3	武津		松下	0
2	中山		川崎	0
0	毛利		塙	0
4	斉藤		金明恵	6
5	橋本		金昌順	5
			上田	0
23	(2)	PT	(1)	21

（審・秋永、崎野）

◆9～12位決定1回戦

大和銀行 36（20－7、16－3）10 ムネカタ
ジャスコ 33（18－6、15－7）13 東京重機

得	〔大和〕		〔ムネ〕	得
0	高浜	GK	遠藤	0
0	増見		我妻	0
5	赤瀬	FP	藤谷	2
9	上村		佐藤	2
3	藤本		佐々木	0
4	渡辺		桜井	3
6	袰川		酒井	1
5	木瀬		菅野	0
0	平井		皆川	1
4	貞本		太田	1
0	松田		川名	0
			上遠野	0
36	(4)	PT	(2)	10

（審・北山、大原）

得	〔ジャ〕		〔重機〕	得
0	山口	GK	大角	0
0	吉田			
3	服部	FP	山崎	0
2	高岡		佐藤	2
2	池田美		嶋田	1
1	佐々木		内山	0
9	池田久		伊原	2
1	武田		井田	0
7	渡辺		古谷	4
8	川井		大林	1
0	石田		熊谷	3
33	(1)	PT	(0)	13

（審・島崎　井上）

◆11位決定戦

東京重機 24（10－7／14－9）16 ムネカタ

得	〔重機〕		〔ムネ〕	得
0	大角	GK	遠藤	0
			我妻	0
1	山崎	FP	藤谷	1
6	佐藤		佐藤	5
1	嶋田		佐々木	0
0	内山		桜井	2
1	伊原		酒井	2
0	井田		皆川	3
10	古谷		太田	3
3	大林		上遠野	0
2	熊谷		高橋	0
			仲野	0
24	(1)	PT	(1)	16

（審・秋永　崎野）

得	〔大和〕		〔ジャ〕	得
0	高浜	GK	山口	0
0	増見		吉田	0
1	赤瀬	FP	服部	2
4	上村		高岡	4
5	藤本		池田美	0
4	渡辺		佐々木	0
6	嬰川		池田久	5
2	木瀬		武田	0
0	平井		渡辺	3
3	貞本		川井	3
0	松田		石田	1
25	(5)	PT	(4)	18

（審・浅井　山本）

◆9位決定戦

大和銀行 25（10－11／15－7）18 ジャスコ

◆5～8位決定1回戦

日本ビクター 19（13－5／6－13）18 ブラザー工業

北国銀行 21（11－9／10－8）17 ソニー国分

得	〔日ビ〕		〔ブ工〕	得
0	小口	GK	大薮	0
0	高橋		三浦	0
2	下條	FP	荒木	9
2	太田		茂山	0
5	長田		中村	4
1	中村		道上	1
1	山之内		太田	2
3	枝川		大久保	0
0	平松		松尾	0
0	松井		末永	1
1	永岡		野田	1
4	工藤			
19	(3)	PT	(5)	18

（審・浅井　山本）

得	〔北国〕		〔ソニー〕	得
0	辻	GK	阿多石	0
0	木戸			
2	中川	FP	斜木	0
0	林		宮原	1
0	丹後		久木田	2
2	松田		崎元	6
1	松下		東郷	1
0	北川静		山口	1
5	金明恵		藤元	6
10	金昌順		楠本	0
1	上田		当房	0
0	北川真		永尾	0
21	(4)	PT	(4)	17

（審・秋永　崎野）

◆7位決定戦

ブラザー工業 25（12－11／13－6）17 ソニー国分

得	〔ブ工〕		〔ソニー〕	得
0	大薮	GK	阿多石	0
0	三浦			
12	荒木	FP	斜木	0
3	茂山		宮原	1
3	中村		久木田	0
2	道上		崎元	4
0	太田		東郷	0
1	大久保		山口	3
0	松尾		藤元	7
3	末永		楠本	0
1	野田		当房	0
			永尾	2
25	(4)	PT	(2)	15

（審・秋永　崎野）

◆5位決定戦

北国銀行 27（11－10／16－14）24 日本ビクター

得	〔北国〕		〔日ビ〕	得
0	辻	GK	小口	0
0	川北		高橋	0
4	中川	FP	下條	4
3	林		太田	0
2	松田		長田	8
3	松下		中村	0
0	塙		山之内	3
6	金明恵		枝川	4
9	金昌順		平松	1
0	上田		松井	1
0	北川		永岡	0
			工藤	3
27	(1)	PT	(4)	24

（審・浅井　山本）

◆準決勝

大崎電気 36（22－12／14－11）23 日立栃木

シャトーレーゼ 24（9－11／15－8）19 立石電機山鹿

得	〔大崎〕		〔日立〕	得
0	大西	GK	岡本	0
0	佐々木		梅津	0
3	松尾	FP	井沢	5
0	須永		山口	0
3	石井		菅原	3
2	沖山		尾苗	8
3	徳渕		中村	2
10	金玉花		神永	2
12	尹乗順		石毛	2
2	江口		新井	0
0	前川		岡田	1
1	鈴木		吉鶴	0
36	(6)	PT	(1)	23

（審・島崎　井上）

得	〔シャ〕		〔立石〕	得
0	丸山	GK	岡本	0
0	高原		竹下	0
0	星野	FP	江口	12
6	嶋崎		山口	1
11	海道		横田	2
4	松沢		田中	0
1	小林		武津	6
0	小野寺		中山	1
0	小沼		毛利	0
2	山岸		斉藤	5
0	李京姫		橋本	2
0	井出			
23	(5)	PT	(2)	19

（審・北山　大原）

◆3位決定戦

立石電機山鹿 27（16－8／11－12）20 日立栃木

得	〔立石〕		〔日立〕	得
0	岡本	GK	岡本	0
0	竹下		梅津	0
1	江口	FP	井沢	5
3	山口		山口	0
5	横田		菅原	2
0	田中		尾苗	5
6	武津		中村	1
6	中山		神永	0
0	毛利		繁在家	0
6	斉草		石毛	3
0	橋本		新井	3
			岡田	1
27	(2)	PT	(2)	20

（審・北山　大原）

◆決勝

大崎電気 25（15－10／10－8）18 シャトーレーゼ

得	〔大崎〕		〔シャ〕	得
0	大西	GK	丸山	0
0	佐々木		高原	0
0	松尾	FP	星野	0
0	須永		嶋崎	4
1	石井		海道	6
1	沖山		松沢	1
2	徳渕		小林	0
5	金玉花		小野寺	0
14	尹秉順		小沼	1
1	江口		山岸	1
0	前川		李京姫	3
1	鈴木		井出	2
25	(0)	PT	(1)	18

（審・島崎　井上）



■第10回全国高校選抜大会を見て■

インターハイをめざして一層の精進を

全国高体連ハンドボール部
副部長　日野　博



昭和学院初優勝の原動力となった座間選手

男子は、選手層の厚い久留米工大附属高が、評判通り底力を発揮し、2年連続4回目の優勝を遂げた。全員が180cmを越える大型チームで、走力、投力、技倆等に優れた力を見せ、快勝に終る。特に中山、久保田、杉元の活躍はめざましく、点を取られても取り返せる地力を身につけていた。九州大会、全国大会でも堂々たる優勝であった。

準優勝の横浜商工高は、全員が闘志を前面に打ち出し、1回戦よりコンビプレーを各人が忠実に発揮してペースを守り、好成績をあげたが、久留米工大附属高の大型のパワーの前には敗れ去った。

興南高、明星高ともに技倆とスピードを遺憾なく発揮して準決勝まで勝ちみ、よく健闘し、第3位を獲得した。

8月の全国高校総体ではどのように鍛えられたチームが制覇するか期待される。

一方女子は、昭和学院が、準々決勝、準決勝と連続して延長戦を戦い抜き、苦しい展開であったが、高橋㈢、座間を中心に粘り強くペースを守り、ディフェンスの良さも充分に発揮し、初の栄冠をを得た。

準優勝の本庄高は、小型チームであるが、走力、技倆と動きの速いパスワークで強者を次々に破り、初出場とは思われない本庄旋風を巻き起こしハンドボール競技の醍醐味を発揮した。決勝では敗れたものの、本大会での人気チームであった。

準決勝に残った佼成学園高は、名短大附高を破り、勢いに乗れるかと思われたが、本庄高のパワーに押された感である。川口青陵高は、昨年の実績をもって本大会でもセットプレーを軸に健闘するが、昭和学院高の粘りに敗れた。

1、2回戦で敗れたチームの中にも好チームが多く男女とも本命のない大会であったが、8月の全国高校総体時には各チーム共鍛えて北海道の地で覇を争うことであろう。

本大会は10周年記念大会として、昨年より神奈川県単独、各ブロック、東北・関東・九州・近畿を各1チーム増として、計男女それぞれ30チームとして実施した。昭和61年度最後の大会であったが、高校生にとっては8月の全国総体の前哨戦でもあり、年々高度化する大会であった。各学校も年度末で行事や先生方の移動等で多忙の中、地元の役員の方々や高校生の皆様には心より感謝申し上げる次第である。本大会を基盤に、ハンドボール競技の益々の発展を期待し、本年度日本で行われるジャパンカップをはじめとした数々の大会が成功裡に終わることを祈ります。

近年、体格差を感じるゲームが多くなってきたが、本年4月より日本のハンドボール協会が討議し、日本のハンドボール競技の発展を期して、よりスピーディに、よりエキサイティングに、よりダイナミックなハンドボールをめざし、観衆を魅了させる画期的なルール改正の真意を追求して、その主旨をよく理解し、指導者、選手は体力、走力、技倆を身につけ精進されることを望みます。

「日本ハンドボール史」の刊行を終えて

日本協会の50周年記念事業として、2年前から準備に取りかかっていた「日本ハンドボール史」は、全国愛好者諸賢の絶大なご支援のもとに、3月末、無事、刊行の運びとなり、予約者を中心とした関係者への配布も、5月末で一応、行き届いたと思われます。

機関誌を通じ、これまでにも、刊行事業に対し、再三、ご協力を呼びかけて来ましたが、編集委員会の予想以上に大きな反響を呼び、ある意味では、史上、これほどの全国的規模の〝共同体制〟が採られたことはなかった、とさえいえるものでした。

改めて、多くの皆様に感謝の意を表したいと思います。

その背景には、これまでの半世紀、この種の企画が、まったく建てられず、愛好者の方々は、他の競技団体が次々と〝記念誌〟を刊行するのを横目で見ながら、いつの日かハンドボール界でも、という気持ちを、抱かれていたことは見逃せません。

それだけに、編集委員会に課せられた責任は重く、大きなモノがありました。

パイオニアの一人である入江信太郎委員長を中心としたスタッフが、基本的な編集方針として打ち出した条項の中に「他団体の同事業に遜色のないモノを」という一項が加えられたのも、そうした気負いから生まれたといえます。

もう一つ、編集委員会のバックボーンとなったのは「日本ハンドボール史」が、単にOB、OGの懐旧の想いを満足させるだけではなく、現代の若者を含め、あらゆるハンドボール愛好者に、ハンドボールに親んだプライドを、このスポーツの日本における歴史の厚さ、重みを感じとって欲しいということでした。

ハンドボールは、たしかに若いスポーツにはちがいありませんが、すでに半世紀もの歩みを刻み、国際的にも数々の実績を刻したことを、もっともっと理解し、誇って欲しいと思うのです。

それだけに、出来あがってみると、いくつかの不備と力足らずの面がのぞき、はたして、刊行の日を心待ちにされていた皆さまの期待に添えたのかどうか、新たな不安がつのります。

業務の進行にあたっては、最大の悩みは、これまでの歩みを印した資料が、組織としてまったくといってよいほど保有されていないことでした。

それをカバーするには、個人の貴重なデータを拝借する以外になく、これは、困難を極めました。

多くの方々は、ご自分の想い出のために資料を整備されているのであり、「日本協会用」ではありません。

ていねいにアルバムに帖られた写真を、はがしていただいてお借りする心苦しさ。こんなコトまで、日本協会は知らなかったのか、といわれる過去の業績に対する認識の浅さ――。

編集委員は、複雑な気持ちを抱かせられながら、月日が進むにつれ「この機をおいて日本ハンドボール史刊行のチャンスはない」という盛り上がりにつながって行きました。

スタッフの一人として、このムードは、嬉しいコトでしたし、誇れるコトでした。

とりわけ、活躍された年代が古いかたほど、この事業への関心が厚く、地方協会関係者からの原稿の集まりが、順調に運ばれたのは、大きな支えといえました。

この二つの部分が不充分では、「日本ハンドボール史」を刊行する意義が、半減してしまうのです。

戦前の事業については、多くのOB、OGが戦火に見舞われ、貴重な資料を失われています。

それにも拘らず、実に様々な情報が寄せられ、個人の記憶に頼らざるも得なかった昭和13年から20年までの歩みを、どうにか一まとめにすることができました。

意外なのは、戦後復興期の記録が不充分に終わってしまったコトです。

ハンドボール復活に、心を躍らせながらも、当時の愛好者は、ご自身の生活に、多くのエネルギーをさかれていたのではないかと推察したものでした。

この時代は、すべての面で物資が不足し、資料を整えるにも苦労が多かったものとも思われます。

刊行にあたって、いくつかの試みを実現させましたが、なかでも関係者による「エピソード原稿」は、数回の編集委員によるディスカッションの結晶でした。

球史周辺のできごとを、単に年代史のなかで紹介するのではなく、当事者自らに執筆を願うというのは、難しい部分もありましたが、次々と寄せられる原稿は、我々が求めたいた以上の読み応えで、出来あがってみると、このパートが、一つの特色といえるほどの豊富さとなりました。

執筆各位の情熱に、現役時代の勇姿を偲ばせるかたも、多いと存じます。

アンケートも、予想以上の反響を得ました。

各チームのマネージャーなどをわずらわし、600人のOB、OGをピックアップ、50%を越える回答をいただいたのはこの事業そのものの成功を確信させる〝成果〟でした。

ただ、途中で、このアンケートが、記念誌購読者獲得のための伏線ではないかという声が聞こえてきたのは、残念を通りこして、腹立たしいことでした。

そのように思われて返信をためらわれた方がいたとしたなら、無理にご協力いただかなくてよかった、とさえ思うのです。

編集委員を通じて、多くの方々が、このような企画はどうかと提案して来て下さったのも、有難い話でした。

そのうち、いくつかは採用させていただきましたし、記録・資料編には、この大会もとご提案いただいたのも助かりました。

限られた紙数――それでも当初の予定の550ページを300ページも上回っての刊行になってしまいましたが――のためすべてのプランを紙上に実現することは不可能でした。陽の目を見なかった企画のなかでは、「写真でみるユニホーム史」「来日外国チームエピソード写真集」「劇画・日本ハンドボール史」など、視覚に訴える部分が心残りです。

今後、記念誌などを企画されている協会、連盟のかたたちには、ぜひ、この面で、新しい展開を遂げられるよう、期待したいものです。

さて、「日本ハンドボール史」には、多くの欠落部分があります。たとえば、全国を徹底的に調べれば、一九二二年七月、大谷武一氏が、初めて日本にハンドボールを紹介された講習会に出席されたかたが、ご健在かもしれない。

そう考えると、今回の事業は、あまりにも、軽く、薄いのです。

半世紀の球史のなかには、もっともっと正確に書き残しておかなければいけない出来事や大会、試合があるにちがいありません。

その発掘作業を、これからも、積極的に推進する必要があるでしょう。

今回の「日本ハンドボール史」のできばえを、何人かのかたは、賞讃して下さいましたが、それは、史上初めての事業、という甘い採点も含まれてのことでしょう。

編集委員会では、新しい顔ぶれによって、今回の「補遺（ほい）」を刊行するように日本協会へ提案しています。

同時に、日本協会が、常時資料、記録を整備する体制も確立されなければなりません。

幸いにコンピューター・システムやコピーマシンの発達は、この面で大きな貢献が期待されます。

しかし、問題なのは、そこへ打ち込むデータが整えられなければ、秀れたマシンも無用の長物です。

各協会、各連盟に「歴史担当」とでもいうかたを配置していただいて、少くとも、ブロック大会以上のレベルのデータは、すべて日本協会に集結される組織が造れないものでしょうか。

ナショナルプレイヤーのリスト（プロフィール）、外国選手のデータ保存などの不足も、今回の編集で痛感したことでした。

日本協会には、「日本ハンドボール史」を作るにも、一片の資料さえ無いのが現状です。

今回は、ともかく、歴代OB、OGの〝個人パワー〟で乗り越えました。

しかし、このあとは、その甘えが許されません。

次の「日本ハンドボール史」は、日本協会手持ちの資料で総てがまかなわなければならないのです。

ハンドボールというスポーツが、陸上競技や競泳のように記録を争われないため、この面での認識が低い、とはよく指摘されることですが、このさき、それは、弁解にもなりません。

「日本ハンドボール史」を刊行したことによって、いかに、球界の業績を書き残し、後世へ伝えていくことが重要かを分かっていただけたなら嬉しいのですが――。

おそらく、お手元の「日本ハンドボール史」を、ごらんになりながら、ご不満や、誤りを発見されたかたも、多いかと存じます。

その声を、ご遠慮なく、編集委員会あて、お寄せ下さい。

そのために、入江委員長以下スタッフは、来年3月末まで、委員会を解散せず、皆さまのご批判を受ける準備を整えております。

いささか、無責任な発言かもしれませんが、今回の「日本ハンドボール史」には、一種のたたき台的な要素もあるのです。

多くの愛好者から、この二年間に寄せられた以上の情報も協力が得られつづけたなら次の機会の刊行事業は、より充実したものになりましょう。

重ねて、全国のご支援に感謝しつつ「日本ハンドボール史」が、日本協会の永遠の事業として、受けつがれることを期待いたします。

『日本ハンドボール史』編集委員会

委員長　入江　信太郎

委員　外山進二、嶋田新太郎、村田弘、岡村昭二、杉山茂、藤本強、滝口三郎、川上整司、水上一、鴨門義夫、荒川清美、大野金一

特別寄稿

ボールスピードと疲労の関係について

日本ハンドボール協会
トレーニングドクター群
森川壽人
(日本体育大学・体力学)

ハンドボール競技の醍醐味は、なんといってもシュートにある。ディフェンスという障害を乗り越えて、敵陣の最後の砦であるゴールキーパーと相対する場面は、選手にとっても観客にとっても息詰まる一瞬であろう。成功か失敗か、ただそれだけのことなのに、緊迫感を覚え手に汗を握るのである。

このシュートを成功させるには、結構多くの条件を満たさなければならない。たとえば、敵の間隙を味方の協力を得てうまく抜け、キーパーと一対一にならなければシュートは打てないし、二人の位置、態勢、技量などからコースを一瞬にうちに判断して正確にシュートし得点しなければならない。

得点はわずか1点でも、相手より少なければ負け試合となる。あの時のシュートが入っていれば……と悔しい思いをした経験は誰もが身に覚えのあることと思う。特に、1点、2点を争う緊迫した好ゲームになるほど、小さなミスが堤防の決壊の如く大きな痛手になることは想像に難くない。

そこで、決定的瞬間であるシュートの失敗を少しでも減らす方策について、一つの側面から考えてみたい。

「日本ハンドボール協会スポーツ医科学委員会の研究報告から」

本委員会では昭和61年度、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告に「スタンディング・スローによるボールスピードと疲労の関係」と題した研究を発表したが、その中から示唆を得たいと思う。

本研究に協力した被検者（女子選手）のうち実験の練習試合にフル出場したS.M.とK.Y.についてここではふれるが、二人とも5月30日より行なわれた東洋証券ハンドボールジャパンカップ'87の代表選手である。

まずは、二人の練習試合の結果からみてみよう。試合前の計測では、ボールスピードはS.M.が77 km/時、K.Y.が79 km/時であったが、1時間の試合終了の後再度計測したところ、S.M.は変わらず77 km/時、K.Y.は76 km/時と減少を示した。ペナルティースローラインからのシュートを考えた場合、時速80 km/時のシュートで0.315秒後にはゴールインされる。猪飼等（1961）の報告では、日本女子短距離選手4名の全身反応時間（0.317秒）に匹敵することから、ゴールキーパーの反応時間を推測するとかなり微妙な意味を持つボールスピードであるといえる。これが試合の何らかの影響によりK.Y.のようにボールスピードが低下したなら、それこそゴールキーパーにゴールを阻止されやすくなるだろう。たとえば、ボールスピードが75 km/時になれば、7mのペナルティースローラインから投げたボールはゴールするのに0.336秒を要する。その差0.021秒は約7％の増加となる。一方S.M.は、ボールスピードに変化はなかった。この二人の違いについて、同時に測定された心拍数、背筋力、握力から考えてみよう。

図1－AにはS.M.、図1－BにはK.Y.の心拍数が経時的にプロットされている。K.

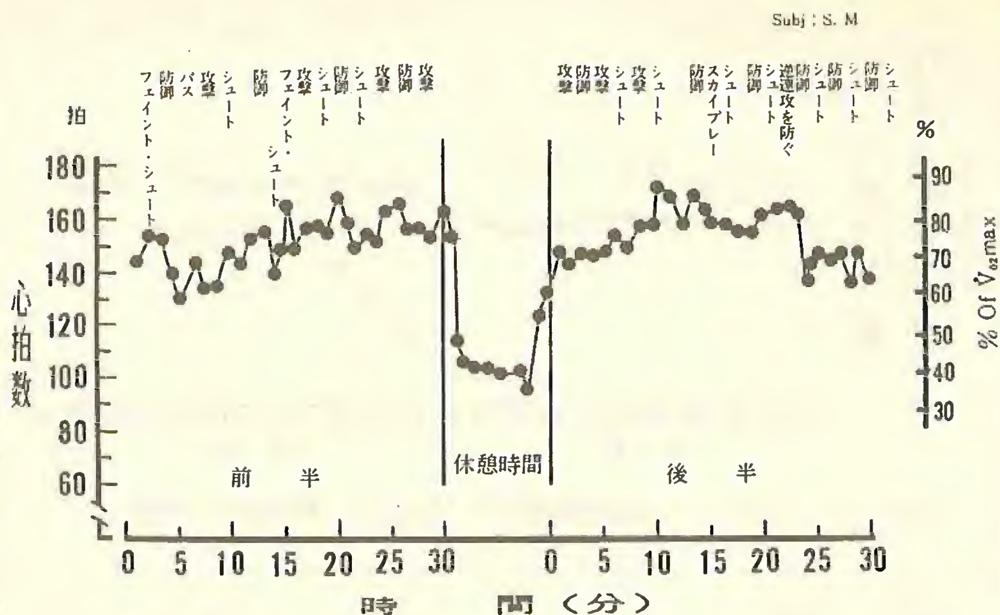


図1－A

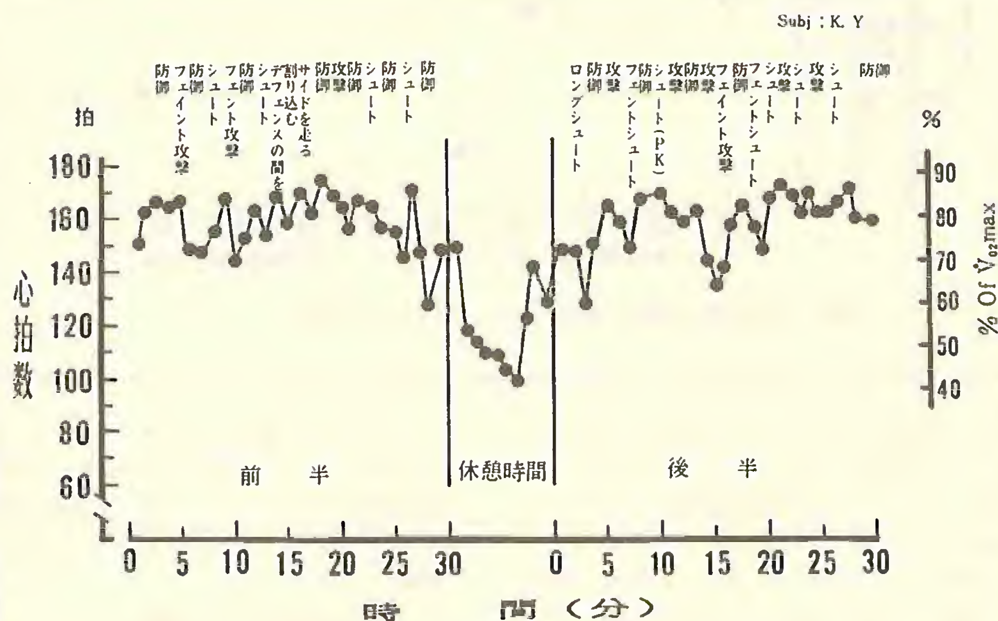


図1－B

Y. の心拍数は、前、後半ともに平均約160拍/分の速さにあったが、S. M. は約10拍少ない150拍/分であった。いずれにせよ、二人とも相当に強い運動をしていたわけである。背筋力についても、ボールスピードと同じ傾向が得られた。K. Y. は122 kg から116 kg に減少しているのに、S. M. の試合前155 kg の数字は試合後でも変わっていない。しかし、握力には二人とも変化はなかった。どうやら、試合のボールスピードに与える影響は、握力の

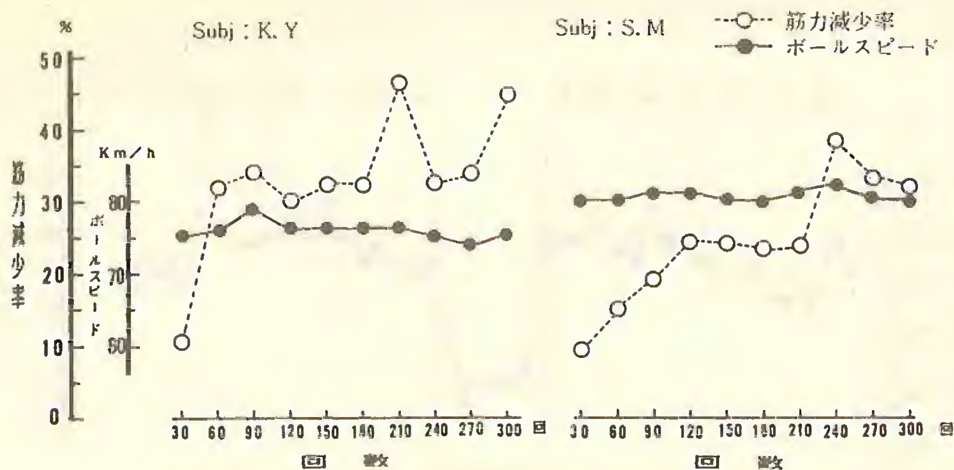


図2　サイベックスマシンによる腕伸展運動とボールスピード，筋力減少率との関係

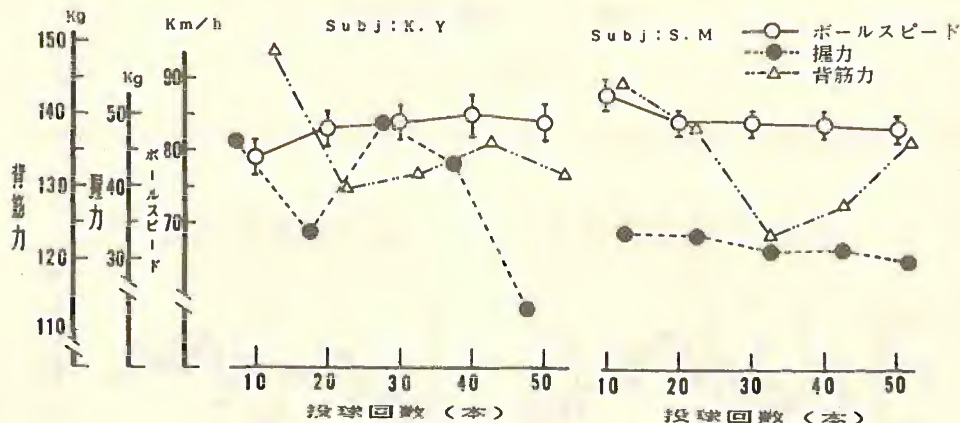


図3　投球回数と背筋力，握力，ボールスピードとの関係

ような局所性のものよりも心拍数、背筋力といった全身性のものにあることが言えそうである。そこで、この仮説を証明しようとしたのが次の三つの実験である。

図2には、サイベックスマシンを用いて腕に筋疲労を起こさせたときの筋力減少率とボールスピードが示されている。K. Y.、S. M. ともに筋力は漸次減少しているのに、ボールスピードは多少の変動はあるものの最終的には全く変化していない。腕の疲労のみではボールスピードに影響を及ぼさないことになる。

投球動作はいわば全身運動であるので、実際に全力投球を行なったときの筋力とボールスピードについて調べたのが図3である。ここでも図2に示した腕持久力との関係と同様の結果が得られた。つまり、筋力は低下の傾向を示しているが、ボールスピードにはあまり影響しなかったのである。

そこで、今度は持久性の運動であるトレッドミル走を実施し、ボールスピードとの関係について検討した。図1－A及び図1－Bに示されている通り、試合中の平均的運動強度は約80% VO2max に相当する。そこで、このトレッドミル実験でもこれに相当するスピード及びそれよりやや軽い60% VO2max のスピードでそれぞれ1時間走行させた。そのときのボールスピードの変化について図4

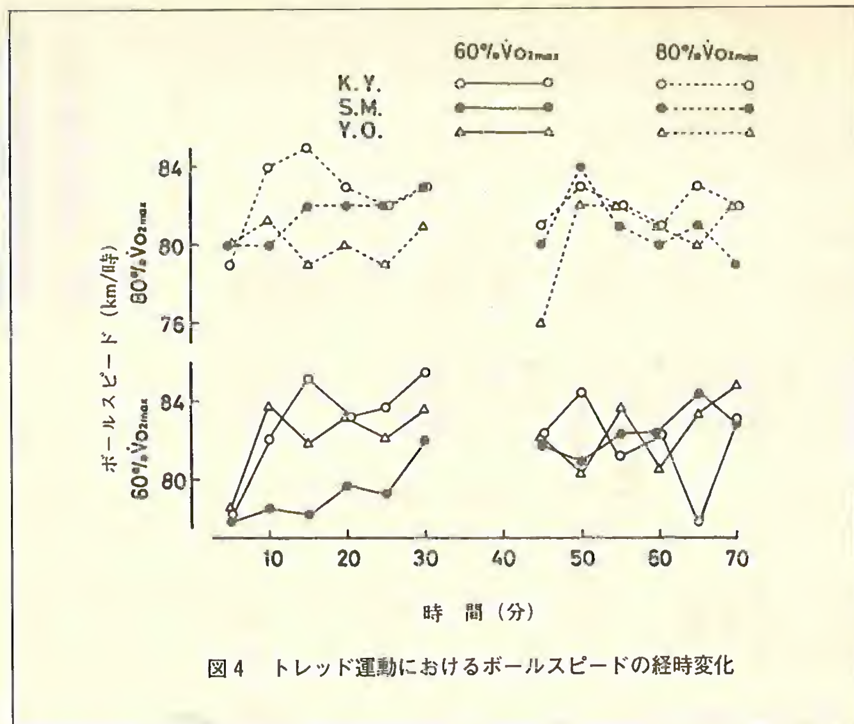


図４　トレッド運動におけるボールスピードの経時変化

に示した（注：この図ではもう一人の被検者Y. O.が含まれている)。60％ VO2max では、前半はウォーミングアップの効果があったのか、徐々にボールスピードは向上しているが、後半では個人の間にばらつきがあるものの、ほぼ３名の平均値としては一定した値をとっている。ところが、80％ VO2max の強度では、特に後半10分目以後のボールスピードが３名とも低下しているところに注目して欲しい（注：K. Y. の65分目の上昇は、疲労困憊に近い状態であったため、70％ VO2max に相当するトレッドミルスピードにさげたことによる)。練習試合前と試合終了後ではボールスピードに変わりのなかったS. M.が、ここでは前半上昇したとはいえ、後半の落ち込みは他の二人よりも著しい。この時の心拍数は165拍に達していた。ここで練習試合（図１－A）の時の心拍数は、K. Y. よりも約10拍少ない150拍/分であった。しかも試合終了までの５分間は140拍/分に減少していたことに気づいていた諸氏も多かったことと思う。練習試合での S. M. の運動強度は、K. Y. よりも低く、それがはからずもボールスピードの低下をまぬがれる結果となってしまったようである。

今回の一連の実験を通して明らかになったことは、ハンドボール競技はかなり持久性要素を必要とするスポーツであること，しかも，投球スピードを低下させる原因が局所の筋疲労よりも全身持久性に関わっていたことである。もちろん，投げ出すボールにスピードをつけるのは，スピードとパワーのトレーニングによるところが大きい。しかし，そのスピードを維持するためには，全身持久性のトレーニングを欠かすことはできない。これを機会に，今後の練習計画に全身持久性トレーニングをより多く取り入れて，試合終了のホイッスルが鳴るまでスピードの落ちないパワフルなシュートを敵陣ゴールめがけて打ち込めるようになることを期待している。

各地の記録から…

東北

宮城県春季選手権

（4月24～26／仙台市体育館ほか）

〈大学・高専・一般男子〉

▼1回戦
仙台育英ク 34－19 宮城高専
東北学院大 47－5 仙台電波高専
東北大 36－19 宮城教育大
東北福祉大 26－22 仙台大
ピーターパン 28－19 白虹会

▼2回戦
仙台育英ク 25－22 東北電力
東北学院大 43－14 東北大
東北学院大ＯＢ 40－20 東北福祉大
東北大ＯＢ 20－9 ピーターパン

▼準決勝
東北学院大 31－19 仙台育英ク
東北学院大ＯＢ 25－17 東北大ＯＢ

▼決勝
東北学院大 28（15－13, 13－6）19 東北学院大ＯＢ

〈高校男子〉

▼1回戦
仙台南 15－12 仙台三
仙台 32－17 仙台商
仙台西 16－12 泉館山
古川工 23－20 仙台向山

▼2回戦
仙台育英 29－10 仙台二
仙台南 36－15 榴ケ岡
佐沼 36－12 築館
古川 16－15 塩釜
仙台 27－20 泉松陵
仙台西 29－15 東北
古川工 25－18 県工
仙台一 16－13 古川商
仙台育英 30－9 宮城広瀬

▼3回戦
仙台南 14－12 佐沼
古川 22－21 仙台
古川工 29－17 仙台西
仙台育英 24－18 仙台一

▼準決勝
仙台南 25－16 古川
仙台育英 23－6 古川工

▼決勝
仙台育英 19（13－9, 6－5）14 仙台南

〈高校・大学女子〉

▼1回戦
塩釜女高 19－11 泉館山高
宮城二女高 35－6 築館女高
仙台女商高 12－10 宮城教育大
東北福祉大 42－8 古川商高
涌谷高 18－3 古川女高
朴沢女高 14－11 飯野川高
宮城三女高 34－5 泉松陵高
聖和学園高 44－5 仙台西高

▼2回戦
宮城二女高 21－8 塩釜女高
東北福祉大 35－13 仙台女商高
涌谷高 19－10 朴沢女高
聖和学園高 16－8 宮城三女高

▼準決勝
東北福祉大 23－10 宮城二女高
聖和学園高 14－11 涌谷高

▼決勝
聖和学園高 17（5－7, 12－6）13 東北福祉大

関東

千葉県実業団春季リーグ戦

（4月12、18、19日／コスモ石油体育館）

〈1部〉
三井石化 35－29 日産石化
海自下総 31－29 出光千葉
コスモ石油 47－14 海自木補所
海自下総 31－23 三井石化
出光千葉 38－19 日産石化
コスモ石油 57－21 日産石化
三井石化 29－28 出光千葉
海自下総 40－15 海自木補所
コスモ石油 50－29 三井石化
海自下総 58－16 日産石化
出光千葉 43－16 海自木補所
三井石化 43－15 海自木補所
コスモ石油 キケン 海自下総
海自木補所 32－24 日産石化
コスモ石油 26－22 出光千葉

〔順位〕①コスモ石油②海自下総③三井石化④出光千葉⑤海自木補所⑥日産石化

〈2部〉
東京電力 29－16 東京ガス
海自館山 10－9 東京ガス
東京電力 33－21 海自館山

〔順位〕①東京電力②海自館山③東京ガス

〈入替戦〉
東京電力 33－32 日産石化

※東京電力が1部に昇格。

第5回千葉県中学校春季大会

（4月29日、5月2、3日／逆井中学、市川市体育館）

〈男子〉

▼1回戦
葛飾 15－7 富岡
磯辺二 7－5 東深井

▼2回戦
東邦 15－7 葛飾
花見川二 10－9 流山南部
河原塚 14－3 木間ケ瀬
福栄 15－9 柏南部
野田一 10－7 越智
柏三 8－6 若松
花園 16－8 見明川
逆井 16－1 磯辺二

▼3回戦
東邦 16－4 花見川二
福栄 21－8 河原塚
野田一 20－10 柏三
逆井 18－7 見明川

▼準決勝
東邦 27－10 福栄
逆井 20－11 野田一

▼決勝
東邦 10（6－4, 4－5）9 逆井

〈女子〉

▼1回戦
花園 10－5 湖北台
大栄 15－6 逆井

▼2回戦
野田一 10－4 花園
葛飾 13－9 佐原二
福栄 17－1 柏三
市川二 16－9 磯辺二
こてはし台 13－0 東国分
上志津 14－12 妙典
聖徳 8－2 二宮
貝塚 10－6 大栄

▼3回戦
野田一 14－4 葛飾
福栄 16－15 市川二
こてはし台 19－3 上志津
貝塚 24－1 聖徳

▼準決勝
野田一 21－13 福栄
こてはし台 16－5 貝塚

▼決勝
野田一 10（5－3, 5－3）6 こてはし台

関東高校茨城県予選

（日程不明／水海道市民体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦
竜ケ崎一 31－15 水戸一
竹園 39－36 江戸川学園
鉾田一 15－10 下館一
太田一 23－17 日立一

▼2回戦
麻生 26－18 竜ケ崎一
竜ケ崎南 30－26 土浦工
土浦日大 40－6 神栖
岩井 33－19 竹園
水海道一 33－19 鉾田一
笠間 27－20 古河三
波崎 31－13 結城一
土浦湖北 29－18 太田一

▼3回戦
麻生 22－17 竜ケ崎南
岩井 33－17 土浦日大
水海道一 31－29 笠間
土浦湖北 37－18 波崎

▼決勝リーグ
岩井 24（13－7、11－11）18 麻生
土浦湖北 34（21－19、13－12）31 水海道一
水海道一 23（11－8、12－11）19 麻生
岩井 27（14－13、13－8）21 土浦湖北
麻生 24（13－8、11－8）16 土浦湖北
水海道一 25（11－7、14－6）13 岩井

〔順位〕①水海道一②岩井③麻生④土浦湖北※1・2位、3・4位は得失点差による。

〈女子〉
▼1回戦
藤代紫水 23－10 下妻二
下館二 37－12 笠間
結城二 19－13 鉾田二
太田二 21－15 日立二

▼2回戦
水海道二 27－7 藤代紫水
竜ケ崎一 13－9 藤代
麻生 23－18 岩井
土浦二 24－16 下館二
水海道一 18－15 結城二
牛久 19－16 高萩
土浦三 25－11 石岡二
竜ケ崎二 31－24 太田二

▼3回戦
水海道二 22－9 竜ケ崎一
土浦二 15－11 麻生
水海道一 27－11 牛久
竜ケ崎二 21－20 土浦三

▼決勝リーグ
水海道二 27（10－4、17－3）7 土浦二
竜ケ崎二 21（12－10、9－9）19 水海道一
水海道二 18（9－6、9－4）10 水海道一
竜ケ崎二 25（18－9、7－7）16 土浦二
水海道二 22（13－7、9－6）13 竜ケ崎二
水海道一 22（11－5、11－6）11 土浦二

〔順位〕①水海道二②竜ケ崎二③水海道一④土浦二

埼玉県高校関東大会二次予選

（4月29日、5月2、3、4、10日／大宮南高校ほか）

〈男子〉
▼予選トーナメント1回戦
浦和実 35－10 所沢北
浦和南 24－7 浦和市立
春日部工 28－19 春日部
川口青陵 39－14 大宮北
川口北 28－10 朝霞西
川口東 16－16 上尾東
2PTC1
朝霞 28－22 庄和
川口工 36－13 上尾南
大宮南 22－14 伊奈学園
越谷南 30－29 科学技術
富士見 26－24 所沢緑ケ丘
城西川越 35－13 上尾沼南
浦和西 21－16 大宮
城北埼玉 24－11 秩父
埼玉栄 31－12 三郷工技
浦和学院 32－9 志木

▼2回戦
浦和実 15－10 浦和南
川口青陵 28－22 春日部工
川口北 20－12 川口東
川口工 23－21 朝霞
大宮南 34－10 越谷南
城西川越 41－20 富士見
浦和西 28－21 城北埼玉
浦和学院 23－14 埼玉栄

▼準決勝リーグⅠ組
浦和実 23－16 川口工
浦和実 18－16 川口青陵
浦和実 22－13 川口北
川口工 28－26 川口青陵
川口工 18－15 川口北
川口青陵 27－20 川口北

〔順位〕①浦和実②川口工③川口青陵④川口北

▼準決勝リーグⅡ組
浦和学院 20－19 大宮南
浦和学院 26－16 浦和西
浦和学院 37－9 城西川越
大宮南 20－13 浦和西
大宮南 28－17 城西川越
浦和西 17－17 城西川越

〔順位〕①浦和学院②大宮南③浦和西④城西川越

▼3位決定戦
大宮南 22－17 川口工

▼決勝
浦和実 25（11－9、14－7）16 浦和学院

※浦和実は4年連続5回目の優勝

〈女子〉
▼1回戦
川口青陵 17－7 川口女
浦和学院 24－8 草加東
川口東 14－1 春日部共栄
小松原女 10－9 和光
川口北 19－3 行田女
浦和西 14－9 越谷南
浦和商 13－7 志木
上尾東 16－12 八潮
浦和実 38－4 大宮北
伊奈学園 24－15 浦和南
筑波大坂戸 20－8 戸田
熊谷女 17－10 浦和市立
三郷北 23－11 庄和
春日部女 11－11 大宮武蔵野
2PTC0
朝霞 24－6 狭山
羽生一 28－3 所沢北

▼2回戦
川口青陵 24－12 浦和学院
川口東 17－15 小松原女

川口北 21－11 浦和西
上尾東 23－9 浦和商
浦和実 24－16 伊奈学園
熊谷女 28－6 筑波大坂戸
三郷北 39－6 春日部女
羽生一 19－7 朝霞

▼準決勝リーグⅠ組
川口青陵 18－12 上尾東
川口青陵 24－6 川口北
川口青陵 31－3 川口東
上尾東 11－8 川口北
上尾東 20－7 川口東
川口北 16－9 川口東
〔順位〕①川口青陵②上尾東③川口北④川口東

▼準決勝リーグⅡ組
浦和実 30－11 三郷北
浦和実 16－6 羽生一
浦和実 23－15 熊谷女
三郷北 17－15 羽生一
三郷北 18－14 熊谷女
羽生一 16－6 熊谷女
〔順位〕①浦和実②三郷北③羽生一④熊谷女

▼3位決定戦
三郷北 21－19 上尾東

▼決勝
川口青陵 25（12－6、13－8）14 浦和実
※川口青陵は2年連続2度目の優勝

第25回茨城県実業団選手権

（5月4日／笠間市民体育館）
〈男子リーグ戦〉
日本原研 30－28 自衛隊勝田
日本原研 40－21 動燃東海
自衛隊勝田 42－19 動燃東海
〔順位〕①日本原研②自衛隊勝田③動燃東海

東海

三重県高校春季大会

（4月12、19日／四日市工高、四日市四郷高）
〈男子〉
▼1回戦
津工 19－10 日生第一
桑名工 22－3 四日市中央工

▼2回戦
四日市工 50－7 津工
海星 29－15 高田
四日市南 35－11 尾鷲
桑名西 26－13 津西
津東 24－11 津
桑名 22－18 亀山
桑名北 23－17 四日市西
四日市 24－13 桑名工

▼3回戦
四日市工 45－8 海星
四日市南 23－19 桑名西
桑名 17－12 津東
桑名北 18－14 四日市

▼準決勝
四日市工 39－10 四日市南
桑名 21－14 桑名北

▼3位決定戦
四日市南 18－12 桑名北

▼決勝
四日市工 25（15－8、10－6）14 桑名

〈女子〉
▼1回戦
尾鷲 24－2 津西
亀山 15－10 四日市四郷
桑名 棄権 津
四日市西 17－16 四日市南

▼2回戦
暁 40－5 尾鷲
亀山 22－12 桑名
津東 27－11 上野
四日市商 27－5 四日市西

▼準決勝
暁 32－5 亀山
四日市商 24－13 津東

▼3位決定戦
津東 22－11 亀山

▼決勝
暁 23（10－1、13－2）3 四日市商

三重県一般春季大会

（4月14、19日／四日市工高、四日市四郷高）
〈男子〉
▼1回戦
鵜ノ森ク 35－14 鈴鹿高専

▼2回戦
本田爽風会 50－19 鵜ノ森ク
本田ク 36－16 四日市中央ク
三重教員 40－10 半田ク
本田技研鈴鹿 54－5 鳥羽商船

▼準決勝
本田爽風会 30－27 本田ク
本田技研鈴鹿 41－6 三重教員

▼決勝
本田技研鈴鹿 34（19－8、15－11）19 本田爽風会

第16回三重県中学選手権

（4月19、29日／四日市四郷高／ジャスコ）
〈男子〉
▼1回戦
明和 棄権 東員第一

▼2回戦
亀山 32－6 東員第二
菰野 13－12 白子
西笹川 31－4 明和
西朝明 39－5 四日市南

▼準決勝
西笹川 19－7 亀山
西朝明 34－16 菰野

▼決勝
西笹川 18（8－7、10－7）14 西朝明

〈女子〉
▼1回戦
笹川 棄権 赤目

▼2回戦
西朝明 16－3 北勢
朝明 21－4 名張北
東員第二 10－1 羽津
亀山 42－1 三雲
明和 19－4 四日市南
菰野 27－7 阿山
桔梗が丘 10－6 拓植
西笹川 39－4 笹川

▼3回戦
朝明 10－8 西朝明
亀山 21－1 東員第二

西笹川 33-4 桔梗が丘
明和 11-10 菰野
▼準決勝
西笹川 20-2 明和
亀山 23-8 朝明
▼決勝
西笹川 9（6-5、3-2）7 亀山

第18回静岡県クラブ選手権

（4月19日、5月17日／静岡農高）

〈男子〉

▼1回戦
土肥ク 12-0 富士ク
清商オールド 23-21 二俣ク
▼2回戦
清商ク 43-14 土肥ク
気賀ク 26-20 御殿場ク
星陵ク 12-0 橘ク
静農ク 21-18 清商オールド
▼準決勝
清商ク 33-19 気賀ク
静農ク 42-39 星陵ク
▼決勝
清商ク 28（14-10、14-12）22 静農ク

〈女子〉

▼1回戦
清商ク 29-11 常葉学園ク
▼準決勝
清商ク 18-11 城北ク
ポストク 20-7 清水西ク
▼決勝
ポストク 32（18-6、14-8）14 清商ク

第15回日韓社会人女子交流

韓国・草堂薬品を迎えて、4月7日から16まで日本各地で行なわれた第15回日韓社会人女子交流は、6試合を戦って、草堂薬品が6戦全勝で帰国した。

◆第1戦（4月8日）
（熊本・鹿央町体育館）
草堂薬品 34（17-8、17-11）19 立石電機
◆第2戦（4月9日）
（鹿児島・国分市総合体育館）
草堂薬品 33（17-6、16-12）18 ソニー国分
◆第3戦（4月11日）
（三重・ジャスコ体育館）
草堂薬品 28（14-10、14-8）18 ジャスコ
◆第4戦（4月12日）
（愛知・ブラザー体育館）
草堂薬品 35（16-13、19-14）27 ブラザー工業
◆第5戦（4月14日）
（石川・石川県体育館）
草堂薬品 40（19-8、21-14）22 北国銀行
◆最終戦（4月15日）
（大阪・大阪ガスRC体育館）
草堂薬品 32（14-8、18-11）19 大和銀行

北信越

富山県高校春季選手権

（4月26、29日、5月3日／高岡向陵高）

〈男子〉

▼1回戦
八尾 26-10 新湊
高岡南 10（2PTC1）10 富山中部
富山高専 19-15 高朋
富山工 18-12 大門
小杉 12-11 大沢野工
▼2回戦
氷見 23-10 八尾
二上工 18-12 水橋
富山南 20-8 高岡南
呉羽 キケン 富山高専
高岡商 25-15 富山工
富山東 16-14 伏木
小杉 16-6 富山商
高岡向陵 22-15 高岡
▼3回戦
氷見 39-12 二上工
呉羽 25-14 富山南
高岡商 31-11 富山東
高岡向陵 31-11 小杉
▼準決勝
氷見 11-7 呉羽
高岡向陵 25-15 高岡商
▼決勝
氷見 21（9-9、9-9、2-1、1-1）20 高岡向陵

※氷見は3年ぶり21回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
富山北部 20-10 小杉
富山女短付 21-20 新湊
高岡女 17-7 雄山
高岡向陵 17-6 高岡一
▼2回戦
有磯 31-7 富山北部
富山女短付 15-14 高岡女
富山女 15-7 呉羽
高岡商 16-10 高岡向陵
▼準決勝
有磯 22-12 富山女短付
高岡商 18-10 富山女
▼決勝
有磯 14（10-3、4-9）12 高岡商

※有磯は2年ぶり15回目の優勝。

近畿

第38回奈良県高校春季大会

（4月25、26、29日、5月2日／生駒市総合公園体育館）

〈男子〉

▼1回戦
橿原 10-8 一条
▼2回戦
橿原 11-10 東大寺
上牧 20-7 広陵

片桐 20－11 富雄
斑鳩 12－11 畝傍
奈良 16－14 正強
天理 17－14 高田東
添上 30－6 郡山
生駒 29－5 奈良工

▼3回戦
橿原 24－10 上牧
斑鳩 10－8 片桐
奈良 25－14 天理
添上 10－9 生駒

▼準決勝
橿原 20－10 斑鳩
添上 20－17 奈良

▼3位決定戦
奈良 23－10 斑鳩

▼決勝
添上 15（8－1、7－4）5 橿原

〈女子〉

▼1回戦
十津川 16－4 橿原

▼2回戦
添上 14－2 十津川
富雄 7－6 白藤
生駒 13－4 短大付
一条 8－7 郡山

▼準決勝
添上 12－11 富雄
生駒 10－1 一条

▼決勝
添上 18（8－5、10－6）11 生駒

和歌山県春季選手権

（5月2～4日／県和歌山商高、市和歌山商高）

〈一般男子〉

▼1回戦
和歌山高専 32－27 和歌山ク

▼2回戦
金清ク 32－23 和歌山医大
御坊ク 23－9 打田ク
県和商ク 40－21 和歌山高専
箕島ク 30－13 住友金属

▼準決勝
県和商ク 27－22 金清ク
御坊ク 30－18 箕島ク

▼決勝
御坊ク 24（11－12、13－6）18 県和商ク

〈高校男子〉

▼1回戦
近大附和歌山 38－8 和歌山東
市和歌山商 31－18 貴志川
笠田 25－14 県和歌山商
耐久 36－16 桐蔭
御坊商工 28－22 海南
新宮 39－23 粉河

▼2回戦
近大附和歌山 13－12 市和歌山商
笠田 39－23 粉河
那賀 40－13 耐久
御坊商工 28－26 新宮

▼準決勝
那賀 39－17 御坊商工
笠田 23－20 近大附和歌山

▼決勝
那賀 17（8－8、9－4）12 笠田

〈高校女子〉

▼1回戦
笠田 13－10 新宮
県和歌山商 23－5 貴志川

▼準決勝
粉河 35－7 笠田
那賀 20－11 県和歌山商

▼決勝
粉河 35（15－5、20－9）14 那賀

〈中学男子〉

▼1回戦
貴志川 32－5 近大附和歌山
白馬 21－12 紀伊

▼2回戦
岩出 36－11 金屋
那賀 33－7 打田
貴志川 19－10 湯浅
岩出二 17－15 白馬

▼準決勝
岩出 23－7 貴志川
那賀 27－16 岩出二

▼決勝
岩出 39（21－3、18－8）11 那賀

〈中学女子〉

▼1回戦
岩出二 31－8 那賀
貴志川 25－4 打田
岩出 25－18 桃山
金屋 18－8 粉河

▼準決勝
岩出二 20－6 貴志川
岩出 17－9 金屋

▼決勝
岩出二 29（14－3、15－6）9 岩出

中国

第17回鳥取県室内総合選手権

（3月21、22日／境港市民体育館）

〈男子〉

▼1回戦
米子北高 21－11 境三中A

▼2回戦
境港ク 51－17 米子北高
ポスト 22－5 倉吉工高
米子東高 24－14 境一中OB
鳥取大 16－12 境港工高
境高 34－13 境二中
かしの葉ク 14－10 境三中OB
米子東高OB 20－16 境一中
スカイハンド 17－16 倉吉ク

▼3回戦
境港ク 38－21 ポスト
鳥取大 24－21 米子東高
境高 24－24 かしの葉ク
スカイハンド 不戦勝 米子東高OB

▼準決勝
境港ク 40－17 鳥取大
スカイハンド 26－19 境高

▼決勝
境港ク 39（19－11、20－9）20 スカイハンド

〈女子〉

▼1回戦
境一中 5－5 米子南商高
境二中 13－2 米子東高
倉吉産高 17－12 境三中

▼2回戦
境港ク 20－9 境一中

米子北高 12—5 米子西高A
境二中 11—8 米子西高B
境高 24—7 倉吉産高
▼準決勝
境港ク 22—11 米子北高
境高 20—8 境二中
＜決勝
境港ク 28（12—11、16—13）24 境高

山口県春季一般選手権

（4月4、5日／山口県立体育館）

▼1回戦
下関ク 40—18 山陽国策パルプ
岩国ク 棄権 山口県教員団B
山口大 37—17 徳山ク
山口県教員団A 41—14 出光徳山
▼準決勝
下関ク 44—23 岩国ク
山口県教員団A 37—19 山口大
▼決勝
山口県教員団A 29（12—15、17—13）28 下関ク

中国高校広島県予選

（4月11、12日／尾道高校）

〈男子〉
▼1回戦
賀茂 25—19 誠之館
呉商 26—22 城北
三原工 36—9 安芸
▼2回戦
尾道 44—3 賀茂
廿日市 16—12 宮原
呉工 12—0 三沢
三津田 14—11 安芸南
修道 24—13 呉商
広 34—7 三次工
昭和 27—9 市立福山
呉港 32—6 三原工
▼3回戦
尾道 32—5 廿日市
呉工 21—10 三津田
修道 15—13 広
昭和 16—15 呉港
▼準決勝
尾道 27—5 呉工
昭和 12—10 修道
▼決勝
尾道 26（16—9、10—4）13 昭和

〈女子〉
▼1回戦
賀茂 27—4 尾道商
第一女商 16—3 宮原
安芸南 16—8 戸手商
進徳女 16—9 豊栄
▼2回戦
山陽女 45—2 賀茂
第一女商 12—6 呉商
比治山女 20—5 安芸南
清水ケ丘 17—9 進徳女
▼準決勝
山陽女 25—4 第一女商
比治山女 17—9 清水ケ丘
▼決勝
山陽女 36（18—1、18—1）2 比治山女

第42回岡山県高校春季大会

（4月11、12、18日／倉敷商高）

〈男子〉
▼1回戦
倉敷南 25—13 金川
古城池 25—14 津山工
岡山工 16—10 芳泉
津山 16—13 朝日
青陵 16—15 吉備
大安寺 17—2 西大寺
総社 21—7 邑久
操山 19—14 関西
玉野 30—7 和気閑谷
備前東 18—6 倉敷商
水島工 41—14 落合
児島 29—2 児島第一
天城 18—14 一宮
▼2回戦
東岡工 31—8 倉敷南
岡山工 12—7 古城池
吉備 9—8 津山
総社 19—12 大安寺
倉敷工 17—9 操山
備前東 19—9 玉野
児島 16—13 水島工
玉野光南 25—14 天城
▼3回戦
東岡工 21—11 岡山工
総社 22—12 吉備
倉敷工 27—14 備前東
玉野光南 21—19 児島
▼準決勝
総社 24—16 東岡工
倉敷工 16—4 玉野光南
▼3位決定戦
玉野光南 31—17 東岡工
▼決勝
倉敷工 18（6—8、12—6）14 総社

※倉敷工は10年ぶり4回目の優勝

〈女子〉
▼1回戦
操山 17—12 津山商
天城 11—7 津山
大安寺 8—7 児島第一
落合 14—14 一宮（3PTC1）
倉敷南 18—14 金川
古城池 18—3 青陵
芳泉 9—6 朝日
▼2回戦
玉野光南 24—8 操山
真備 13—7 天城
児島 16—6 倉敷中央
玉野 24—7 大安寺
西大寺 21—3 落合
備前東 17—9 倉敷南
倉敷商 17—7 古城池
総社 15—5 芳泉
▼3回戦
玉野光南 16—10 真備
児島 17—15 玉野
西大寺 29—10 備前東
総社 14—8 倉敷商
▼準決勝
児島 18—17 玉野光南
総社 14—13 西大寺
▼3位決定戦
西大寺 25—17 玉野光南
▼決勝
総社 16（7—9、9—4）13 児島

※総社は2年ぶり6回目の優勝。

広島県一般春季選手権

（4月19日／呉教育隊体育館）

〈男子〉

▼1回戦

広島大 28－25 広島教員

送球会 27－17 自衛隊

▼準決勝

日新製鋼 35－10 広島大

湧永製薬 28－12 送球会

▼3位決定戦

自衛隊 25－14 広島大

▼決勝

湧永製薬 22（12－10、10－7）17 日新製鋼

〈女子〉

▼決勝

広島ク 22（11－7、11－5）12 広島大

中国高校鳥取県予選

（4月18、19日／ ）

〈男子〉

▼予選Aリーグ

境 26－21 倉敷工

境 26－21 米子東

米子東 21－15 倉敷工

▼予選リーグ

米子西 37－17 境工

米子西 28－23 米子北

米子北 23－20 境工

▼決勝トーナメント1回戦

境 29－16 米子北

米子東 17－15 米子西

▼3位決定戦

米子西 16－15 米子北

▼決勝

米子東 18（8－9、10－6）15 境

〈女子〉

▼1回戦

米子北 17－10 米子南

米子東 10－7 倉吉産

米子西 43－7 倉吉西

▼準決勝

境 10－9 米子北

米子西 24－11 米子東

▼敗者復活3位決定戦

倉吉産 39－14 倉吉西

米子北 18－5 倉吉産

米子南 12－8 米子東

米子北 13－8 米子南

▼決勝

境 31（17－7、14－3）10 米子西

九州

長崎県春季選手権

（4月12日／長崎日大高）

〈一般男子〉

▼リーグ戦

佐世保ク 32－22 日大ク

長崎ク 36－19 日大ク

佐世保ク 24－22 長崎ク

〔順位〕①佐世保ク②長崎ク③日大ク

〈一般女子〉

▼決勝

諫早ク 23（14－7、9－5）12 佐世保ク

〈中学男子〉

▼1回戦

大瀬戸 17－5 大野

時津 22－5 戸町

▼決勝

時津 19（11－7、8－7）14 大瀬戸

〈中学女子〉

▼リーグ戦

大瀬戸 14－13 柚木

大野 13－9 柚木

大野 12－7 大瀬戸

〔順位〕①大野②大瀬戸③柚木

長崎県高校春季選手権大会

（4月25、26日／島原農高）

〈男子〉

▼1回戦

長崎南 21－16 西彼

波佐見 33－15 大村

北陽台 24－18 上五島

長崎工 36－13 長崎北

佐世保北 16－15 口加

佐世保西 23－15 佐世保商

▼2回戦

長崎日大 31－9 長崎南

北陽台 24－18 波佐見

長崎工 36－13 佐世保北

瓊浦 27－14 佐世保西

▼準決勝

長崎日大 24－13 北陽台

瓊浦 21－11 長崎工

▼3位決定戦

長崎工 21－20 北陽台

▼決勝

長崎日大 21（11－12、10－6）18 瓊浦

〈女子〉

▼1回戦

佐世保商 42－4 佐世保女

▼2回戦

有馬商 32－11 佐世保西

佐世保商 19－14 佐世保北

聖和 18－12 長崎北

長崎日大 22－11 島原農

▼準決勝

佐世保商 15－13 有馬商

聖和 11－10 長崎日大

▼3位決定戦

有馬商 20－13 長崎日大

▼決勝

佐世保商 20（11－5、9－5）10 聖和

佐賀県春季総合大会

（日程、場所不明）

〈一般男子〉

▼準決勝

鵲友ク 29－22 白石ク

龍登園ク 32－20 教員ク

▼決勝

龍登園ク 30（17－13、13－15）28 鵲友ク

〈一般女子〉

▼決勝

神埼ク 25（13－8、12－8）16 あかねク

〈高校男子〉

▼1回戦

佐賀農 22－12 神埼

▼準決勝

佐賀農 19－14 佐賀西

神埼農 33－9 佐賀東

▼決勝

神埼農 31（16－9、15－4）13 佐賀農

〈高校女子〉

▼1回戦

神埼 25－6 東松浦

佐賀東 15－10 嬉野商

▼準決勝

佐賀女 27－7 神埼

神埼農 30－12 佐賀東

▼決勝

佐賀女 20（6－13、14－4）17 神埼農

〈中学男子〉

▼1回戦

神埼 32－3 三田川

▼決勝

神埼 18（8－8、11－7）15 多久中央

〈中学女子〉

▼決勝

神埼 16（10－6、6－7）13 多久中央

MIZUNO

THE WORLD OF SPORTS

80
SINCE 1906
ボクら、万有引力とたわむれる

コンケーブ意匠

ヘリボーン意匠

サイドモーション サポートリブ

ピボットリング

フレキシブルゾーン

パワー効率重視。コートのマシン〈ランバード〉

室内コート専用のマルチファンクション ソール。

前後左右、あらゆる方向へのトラクション性にすぐれたヘリンボーン意匠をベースに、かかとには着地時の衝撃を吸収、分散するコンケーブ意匠を配置。また、ソール前半にはパワーロスを防ぐサイドモーション サポートリブ、回転運動の軸となるピボットリングをはじめ、屈曲性を高めるフレキシブルゾーンなどをレイアウト。多様なプレーに対応するソールパターンが生まれました。

〈ランバード〉ハンドボール シューズ

《ウイング ショット》¥12,000

- 甲/牛革 ● 補強材/人工皮革 ● 底/ラバー ハーフ シェル ソール
- カラー/16KH-1527 ホワイト・レッドにメタリックネイビー ライン
  /16KH-1562 ホワイトにレッド ライン



RunBird

for The Sports-minded Cosmopolitan

関東学生春季リーグ戦（2部以下の結果、入替戦については、次号にてお伝えします）

〈男子1部〉

早大が優勝

大学	得点	内訳	得点	大学
早大	34	18 16 / 11 12	23	慶大
日体大	28	14 14 / 13 8	21	日大
中大	18	8 10 / 5 11	15	筑波大
国士大	28	12 16 / 16 6	22	法大
日大	17	8 9 / 8 8	16	慶大
国士大	26	14 12 / 10 11	21	中大
早大	25	10 15 / 11 9	20	日体大
法大	17	5 12 / 8 9	17	筑波大
法大	23	14 9 / 7 16	23	日大
早大	29	17 12 / 8 11	19	中大
日体大	33	18 15 / 10 11	21	国士大
筑波大	24	14 10 / 10 7	17	慶大
国士大	16	10 6 / 5 7	12	慶大
日体大	31	15 16 / 11 11	22	筑波大
早大	25	12 13 / 9 13	22	法大
日大	18	8 10 / 6 12	18	中大
日体大	24	12 12 / 9 14	23	中大
法大	22	7 15 / 7 15	22	慶大
早大	33	17 16 / 15 12	27	国士大
日大	18	10 8 / 9 9	18	筑波大
中大	18	7 11 / 6 11	17	慶大
日体大	23	14 9 / 11 10	21	法大
国士大	29	14 15 / 11 7	18	日大
早大	25	15 10 / 11 12	23	筑波大
日体大	28	14 14 / 9 11	20	慶大
法大	22	13 9 / 6 7	13	中大
国士大	24	14 10 / 10 8	18	筑波大
早大	27	13 14 / 11 12	23	日大

［順位］①早大（7勝）②日体大（6勝1敗）③国士大（5勝2敗）④法大（1勝3分3敗）⑤日大（1勝3分3敗）⑥中大（2勝1分4敗）⑦筑波大（1勝2分4敗）⑧慶大（1分6敗）

〈女子1部〉

東女体大が優勝

大学	得点	内訳	得点	大学
日体大	20	13 7 / 8 9	17	日女体大
筑波大	48	24 24 / 5 5	10	東海大
東女体大	35	17 18 / 6 5	11	東学大
筑波大	38	19 19 / 6 8	14	東海大
日体大	18	8 10 / 9 5	14	日女体大
筑波大	26	13 13 / 8 7	15	日女体大
日体大	24	12 12 / 6 7	13	東学大
東女体大	50	27 23 / 4 6	10	東海大
日体大	36	21 15 / 6 5	11	東学大
筑波大	26	15 11 / 6 9	15	日女体大
東女体大	48	28 20 / 8 4	12	東海大
東学大	17	7 10 / 7 7	14	東海大
東女体大	39	23 16 / 9 7	16	日女体大
日体大	30	16 14 / 12 10	22	筑波大
東海大	17	9 8 / 8 1		東学大
東女体大	36	21 15 / 5 4	9	日女体大
筑波大	25	13 12 / 12 11	23	日体大
日女体大	14	5 9 / 6 6	12	東海大
筑波大	30	13 17 / 2 6	8	東学大
東女体大	33	13 20 / 9 11	20	日体大
日女体大	17	17 10 / 6 4	10	東海大
筑波大	35	19 16 / 7 4	11	東学大
東女体大	35	19 16 / 7 8	15	日体大
日女体大	29	13 16 / 3 3	6	東学大
東女体大	30	15 15 / 10 15	25	筑波大
日体大	29	15 14 / 11 8	19	東海大
日女体大	24	15 9 / 5 8	13	東学大
日体大	30	15 15 / 6 4	10	東海大
東女体大	21	12 9 / 7 12	19	筑波大

［順位］①東京女子体育大（10勝）②筑波大（7勝3敗）③日本体育大（7勝3敗）④日本女子体育大（4勝6敗）⑤東海大（1勝9敗）⑥東京学芸大（1勝9敗）⑦筑波大（1勝2分4敗）⑧慶大（1分6敗）



高度なスカイプレーが変幻自在。

スカイハンド®スペシャル（THH705）

- カラー　ホワイト×レッド・レッド×ホワイト・ロイヤルブルー×ホワイト
- サイズ　22.5～28.0cm
- アッパー　ステア表革（ホワイト×レッド）
  牛革ベロア（レッド×ホワイト、ロイヤルブルー×ホワイト）

標準小売価格 ¥13,000

asics TIGER

襲う。

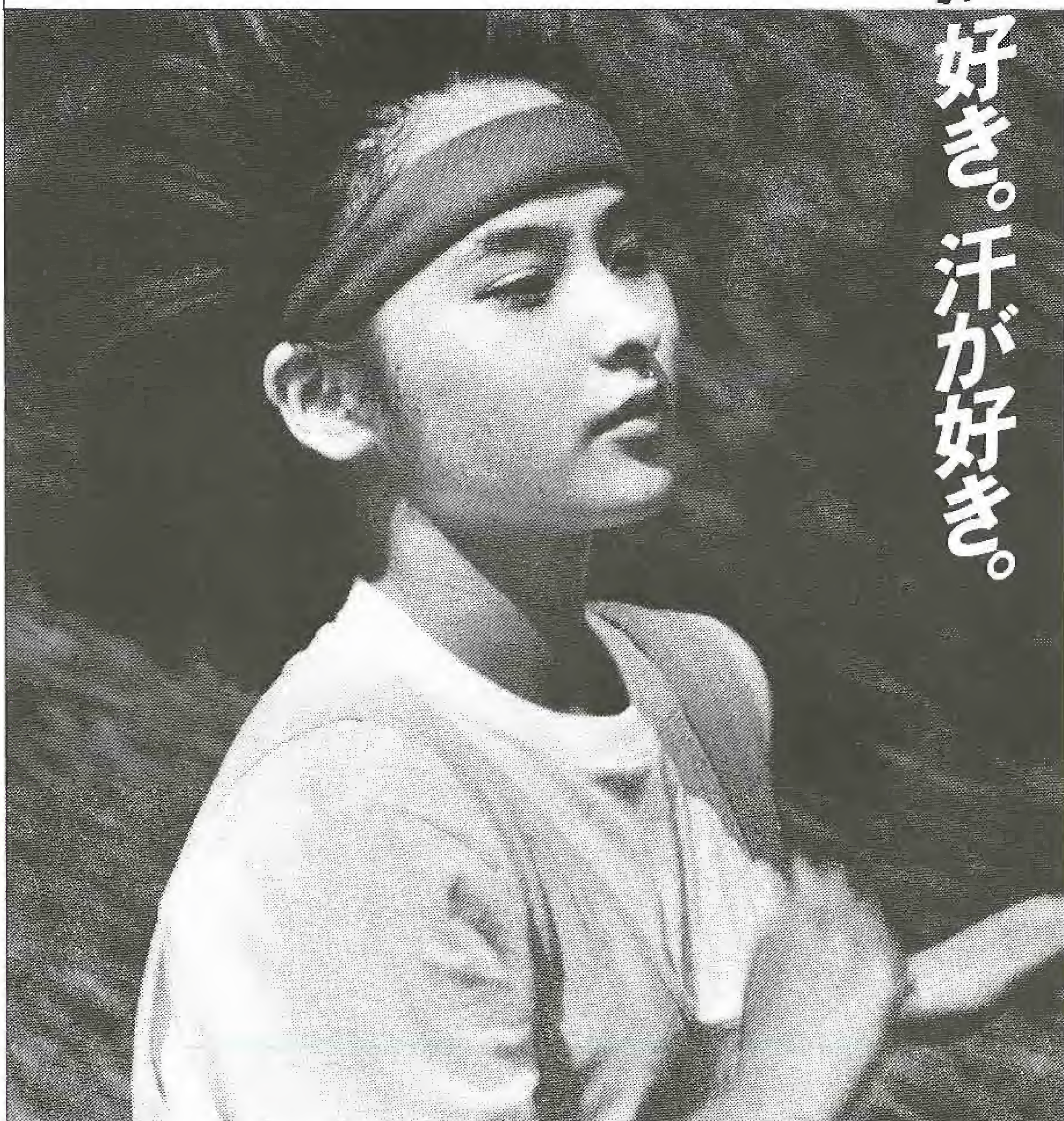
ストップ&ジャンプ性能を徹底追求したシューズ、〈スカイハンド®スペシャル〉。つま先からかかとまで衝撃吸収性に富む超軽量スポンジE・V・A・を内蔵したカップソールが、素晴しい軽さ、ソフトな着地感、ストップ性を獲得しました。アクロバチックなスカイプレイを繰り広げながら、ヒッチコックの「鳥」のような圧倒的迫力でゴールを襲うハンドボーラーに捧げます。

株式会社アシックス

スポーツが好き。汗が好き。

笑顔があります。涙があります。
躍動があります。記録への挑戦があります。
チームプレイの和があります。
からだを動かしていると
人生の大切なものがたくさん見えてきます。
新日鉄は、スポーツを通し
心身を鍛える皆様に声援をおくります。

新日本製鐵



（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二六三号
昭和四十年六月七　第三種郵便物認可
昭和六十二年五月二十五日　印刷
昭和六十二年六月一日　発行
東京都渋谷区　一―一―一
電話　代表（　）二三六一
振替　東京　六―五八三四八番
編集兼発行人　大野金一
定価三百五拾円
（年間購読料三千三百円）